

あなたの頭痛、相談してみませんか？

健 康

通 信

常陸大宮済生会病院
脳神経外科部長 楠 浩

「・・・僕の視野のうちに妙なものを見つけ出した。妙なものを？一と云うのは絶えずまわっている半透明の歯車だった。僕はこう云う経験を前にも何度か持ち合わせていた。歯車は次第に数を殖やし、半ば僕の視野を塞いでしまう、が、それも長いことではない、暫くの後には消え失せる代わりに今度は頭痛を感じ始める・・・」

これは、芥川龍之介氏の小説「歯車」の中の一説です。主人公が、片頭痛発作について述べているところです。「歯車」とは、片頭痛の代表的な前兆である閃輝暗点（せんきあんてん）を意味しています。閃輝暗点の表現の仕方は、人それぞれですが、イラストのように突然視野の中にギザギザと輝くものが見え、そして広がっていくと言います。

「前兆のある片頭痛」は診断しやすいのですが、それは片頭痛患者さんの約 1/4 にとどまります。

片頭痛の特徴

- ・成人の8%の方が片頭痛もちで、女性が男性の4倍。1/4は子供のころから始まり、思春期ごろから多くなる。
- ・頭痛発作の頻度は、月に1～2回が多く、少ない人では、年に数回。多い人は、週1回以上。
- ・頭痛の持続時間は、4～72時間。（子どもは1時間くらいのこともある）
- ・音や光に過敏（臭いにも）、人混みで出やすい。
- ・片側がズッキン・ズッキンと痛むが多い。（両側のことも）動くと頭痛が強くなるなど。
- ・発作の前に肩こりが増強、吐き気・嘔吐伴うことが多い。



頭痛には大きく二つのタイプに分けられます

- ① **一次性的頭痛**：片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛等があります。頭痛が主症状で、頭や体には頭痛の原因となる別の病気がないもの。何らかの原因で慢性的に繰り返し頭痛が起きます。頭痛患者さんの約90%がこのタイプにあたります。〔いわゆる頭痛持ちの頭痛です〕
- ② **二次性的頭痛**：別の病気が原因でおこる頭痛です。風邪、二日酔い、蓄膿症など、よく経験する病気もあれば、脳腫瘍や脳卒中（特にクモ膜下出血）など大変怖い病気の症状の一つとして起こります。月単位・週単位で頭痛が増したり、突然の頭痛で病気が発症するものがあります。

頭痛外来では、患者さんの頭部の画像診断（MRIあるいはCT）による2次性頭痛の判別を行います。脳腫瘍や脳血管障害などの疾患を否定するためには欠かせない検査です。画像検査を加えて頭痛の判別をすることで、治療が適切に行えます。

「頭痛で病院なんて大げさ」「市販の薬を飲めば治まるし」そんなふうを考えて、つらい頭痛と長い間つきあっていませんか？頭痛は、何らかの病気の症状のひとつ。頭痛外来で、あなたの頭痛に合った治療を見つけましょう。当院でも脳神経外科外来で頭痛外来を行っています。

常陸大宮済生会病院 救急患者受入状況

■ 救急車以外
■ 救急車

※救急受け入れの人数を月別に表しています。（休日・時間外を含む）

